

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4673300077号
法人名	有限会社 あおぞら
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	日置市日吉町日置478番地 電話 099-292-2034
自己評価作成日	平成25年6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成25年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で、安心して生活が送れるよう家族の方々はもちろんのこと、ご近所・友人・知人がいつでも気軽に、お越しいただける」雰囲気を大切に又、外出・外泊も、自由にして頂いております。

好みの食べ物、昔なつかしい馴染みのある食事が提供出来る様、努力をおしまず「おいしかった」の笑顔を大切にいたしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧日吉町の中心地に位置し、近隣には市役所支所・小中学校・市民病院等の公共施設があり、利便性と静かな住環境にも恵まれたグループホームである。広々とした敷地には家庭菜園が作られ、気候のいい時期は芝生の庭にテントを張ってお茶や食事、時にはバーベキューも楽しんでいる。また、春は庭に植えられている3本の桜が利用者に春の訪れを告げて、地域住民も立ち寄りお弁当を広げて花見会が行われている。地域に根ざしたグループホーム運営を目指して、開設間もない頃から自治会に加入し、地域の敬老会・文化祭・小学校の運動会などに招待されるなど利用者も地域の一員としての交流が行われている。また、管理者は地域向けの認知症サポーター養成講座の協力員としての活動もしており、行政と協働して認知症の理解と支援について啓発に努めている。

開設して10年目となるが、職員の離職が少なく、働きながら学ぶ姿勢が更なる資格へのチャレンジに結び付き、現在、ケアマネージャー1名・介護福祉士8名・看護師1名と知識と経験の豊富な職員が多数確保され、職員体制を工夫しての外出支援や個々の希望に沿った個別支援など質の高いサービスの提供がなされている。

管理者・職員は利用者の心身の状況を迅速に把握し、利用者本位のケアに努め、利用者が明るく健康で安心して自分らしい生活が送れるように理念に基づいて日々取り組んでいる。

コスモス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を声に出してとなえ確認している。お互い声を掛け合いケアに取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。また、理念とは別に日々のケアの目標として職員心得も作成している。理念は玄関・事務室・ホールに掲示してパンフレット・重要事項説明書にも明記している。職員は毎朝唱和し理念を確認して日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等の呼びかけに対して積極的に参加している。	早い時期から自治会に加入しており、総会や清掃活動にも積極的に参加して地域交流に努めている。また、利用者も地域行事（敬老会・文化祭・小学校の運動会等）への参加・見学を通じて、地域の一員として交流し合える関係が築かれている。小・中学生の体験学習・高校生の実習の受け入れも行い子ども達との交流も図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職場体験・ボランティアを受け入れる事により、認知症を理解してもらえよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況やサービス状況等を報告し委員の方々の意見やアドバイスを参考にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回、自治会長・民生委員・家族代表・行政等の参加を得て定期的開催している。地域行事への参加の提案などもあり、会議が運営に反映され、サービスの向上に繋がっている。	

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>介護上・運営上わからない事があつたら、市の担当者に相談し指示をあおいでいる。</p>	<p>運営推進会議を通じてホームの実情や取り組みを伝えて協力関係を築いている。また、市が行っている認知症サポーター養成講座への協力も行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ベット・車イス等への固定もなし。玄関も解放していつでも出入りできる様に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>重要事項説明書にも「身体拘束・利用者の行動を制限しません」とホームの方針が明記されている。また、定期的に職員全員で勉強会を行い、日常の業務でも疑問点が生じたら都度検討する時間を設けて拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し、介護への意識を高めそれぞれが虐待のない介護、言葉かけに注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修に参加して学んでいる。現在まで、対象者がいなくて活用していない。</p>		

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時又は受け入れ時、管理者より説明を行い不安や疑問について理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を開き、家族の代表者に参加して頂き意見や要望を出し意見交換する。月1回のミーティングで検討する。	日頃より、家族が職員に対して意見等を表しやすい雰囲気作りに努めており、日常の面会時や電話連絡時、ホームの催し物(運動会・敬老の日・クリスマス会)の際に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見・要望については職員間で検討して運営やサービス向上に反映させている。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングで話し合いの場を設けている。	毎月、全職員参加でミーティングを行って、意見交換や話し合いを行っている。職員から出された、意見・提案等は業務やサービスの質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員の努力実績、勤務状況を把握し、給与、労働時間、やりがいなど、喜んで働けるよう職場環境、整備に努めている。		

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の勤務体制を工夫して、研修に参加しやすい機会を作り声かけしている、研修の報告はレポートを提出し、月1回のミーティングで報告されている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修に参加し、グループワーク等で交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴え、心配や不安などに傾聴し、安心できる様寄り添い、信頼して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスで生活暦等を十分に聞き取りを行い、ニーズに応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズに添って対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬う気持ちを持ち、本人が温かい気持ちで過ごせる様に努めている。		

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出。外泊等で交流を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や地域の公民館の敬老会・運動会等に参加している。	利用者の希望に応じてお墓参りやお寺詣り、自宅周辺へのドライブ、馴染みの美容室の送迎など行っている。また、地元出身の利用者は地域行事に参加してこれまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。友人・知人が訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク等で交流を持ちながらコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過や状況をお聞きしたり空状況をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	時々、マンツーマンで話し合いを持ち、なるべくニーズに添える様なケアをしている。	日常の会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。また、夜間帯の一对一の時や午前・午後のお茶の時間と昼食後に雑談の時間を設けて会話の中からさまざまな思いや希望を引き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話したりレクリエーションを通した中で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、心身状態をチェックしながら把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開いている。	本人・家族の意向や暮らし方の希望を聞いて個々に応じた介護計画を作成している。また、毎月、職員間でモニタリングを行って、変化があれば随時見直しを行い、変化がなくても介護計画の期間に応じて定期的に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常の様子を介護記録に記入したり、申し送り帳で情報を共有し検討している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>状況に応じて検討し取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>定期的にデパート・スーパーに買い物に出かけている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に病院受診、往診をお願いしている。突発での受診が必要な時もお願している。</p>	<p>利用者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は基本は家族にお願いしているが、本人・家族の状況に応じてホームでも柔軟に受診支援を行っている。それぞれの主治医とは24時間連携が図られており、緊急時も適切に対応してもらえる体制が築かれている。</p>	

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場の看護師と情報交換し、必要に応じて受診や往診を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的受診時にドクターに情報提供している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に急変時の対応や終末期のあり方について家族の意志の確認をしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成している。本人、家族の希望による看取りの経験もあり、職員も方針を共有してチームとして最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の指導を年1回救急訓練を実施している。緊急時のマニュアルも作成している。</p>		

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年1回防災訓練、通報訓練を消防署立会で実施している。年1回は自主的に訓練している。</p>	<p>年2回消防署立ち会いの防災・防火訓練と年1回自主訓練も行っている。訓練は全て夜間想定で職員一人ひとりが自信を持って避難誘導できるように取り組んでいる。地域へは回覧板で訓練の案内を行い、地域住民の参加も得られている。スプリンクラー及び自動通報装置は設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの中で、きずいた事など職員で情報の共有や話し合いをしている。一人一人の性格をつかみ、それぞれに合った声掛けで対応している。	利用者個々の生活歴・職歴を把握して個々に応じた声かけやプライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。管理者・ケアマネが業務の中で気づいたら都度指導して、職員の資質向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い傾聴し、声かけや見守り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望に添ってその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	できるだけ本人が過ごしやすく喜ぶよう支援している。その日に身につけたい洋服など、声かけし準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が楽しく食事出来る様好みの物を理解し努力している。出来る範囲で準備の手伝いをしてもらっている。	「おいしかった」のことばがもらえるように「食」に力を入れており、食材をふんだんに使った栄養バランスのいい家庭的な食事を提供している。また、家庭菜園の収穫で季節を感じてもらい、ときには、気分を換えて、デパートの食堂・そば屋・物産館に出かけて外食を楽しんでいる。ホームでも気候のいい時期は庭でお茶やソーメン流し・バーベキュー・弁当を広げて花見会など「食」が楽しめるように趣向を凝らしている。	

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重を計り健康状態の把握に努めている。食事量、水分量の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人にケアしてもらい必要に応じて職員が介助している。週1回必ず義歯消毒行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に声掛けしたり、トイレ誘導し見守り介助している。	日中は身体状況に問題がない限りトイレでの排せつを支援している。自立している利用者が現在半数近くおり、職員はさりげなく声かけ誘導を行って維持できるように支援している。また、入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックと声掛けに努めている。室内歩行等など行い腸の蠕動運動を促している。		

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人のペースに合わせて、ゆっくり入って頂いている。季節に合わせて対応している。	基本的には入浴は隔日としているが、個々の希望に応じて柔軟に支援している。羞恥心に配慮して同性介助で対応するなど個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間も休息してもらっている。必要な人に対しては、寝具の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の方で、責任もって薬の服用を行っている。毎日様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダー作り、七夕、歌等を楽しみながら気分転換を行っている。		

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>地域の小学校の運動会。敬老会に参加している。個人的に墓参りに行かれたり、家族と外出され喜ばれている。</p>	<p>日常的にはホーム周辺の散歩や敷地内での日光浴・外気浴・家庭菜園の世話などで気分転換を図り、個々の希望に応じて日用品や衣料品などの買い物にも出かけている。また、時には外食や地域行事見学などにも出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族又は、本人よりお金はお預りし、出納帳に記録している。買い物に同伴して使ってもらっている。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話が、あった時など、本人に取次ぐようにしている。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やフロアーに季節の花を飾ったり、カレンダーや行事等の写真の提示をしている。</p>	<p>明るく家庭的で、生活感や季節感のある空間となっている。掘りごたつのある和室やテレビの前のソファ、ダイニングのテーブルなど思い思いの場所でくつろげるように配慮されている。台所もオープンで利用者が手伝いやすく、食事の準備の光景やおいなど生活感を与えている。</p>	

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個室・ソファに座り、テレビ観賞。会話、フロアにてレクリエーション等を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に家族の写真を貼ったり、カレンダーを作成し提示している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>明るく過ごしやすく場所ごとに、わかりやすく利用してもらっている。</p>		

V アウトカム項目

コスモス

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	0	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームあおぞら 1ユニット

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない